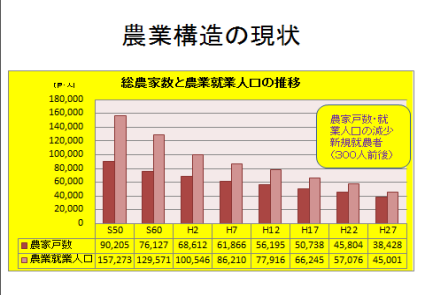


※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A 3 用紙片面におさまるように作成してください。
※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

000 研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート ※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。	※事務局記入欄 受理No.：A-12									
【学校名・氏名】宮崎県立高鍋農業高等学校 萩原 浩二	【応募部門】カリキュラム・マネジメント実践部門									
【修了研修名】平成30年 第2回 校長研修										
【活動名】職員育成のプログラム開発 農業の専門技術の継承と人材育成										
解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？ 平成20年12月に宮崎県産業教育審議会に答申された「これからの本県農業教育の在り方について」の中で、教員の資質向上の取組として、農業の教員を対象とした「指導力向上部会」を設置し、授業研究などの実践的な研修を通して、農業教員の指導力向上を図ることを目的に組織された。 その中で、宮崎県の農業構造の変化や少子化に伴う生徒数の減少は宮崎県の農業担い手の確保や関連産業従事者の育成に大きく影響している。中でも、指導にあたる農業教員の育成に関しては、教諭の現場力の向上や実習教師の技術力の向上と継承が大きな課題となっている。教職員の新規採用数が少ない現状で、いかにして農業教員を確保し、資質や技術力を向上させていくのか。また、若手教員の現場力や農業クラブ活動等における指導方法などのスキルアップが喫緊の課題である。 一方では、農業に関する技術修得や実践が主な教育活動ということもあり、特別会計の運営と維持、更には農場の維持管理が大きな負担になってきている現状がある。そのことが、各分掌の計画する学校行事に参加できない状態を作りだしている。 これらの状況を改善するために、今回、受講した学校マネジメント研修や学校ビジョンの在り方を踏まえて、人材育成の視点で課題を設定した。										
目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？ 採用以来、研修機会の少ない農業実習を担当する県内の実習教師及び実習助手の指導力向上と、資質向上を目的に悉皆研修として計画した。内容としては、県教育委員会高校教育課、教職員課、財務福利課と連携したプログラムを設定し、講話やグループワーク等を行いながら、同じ職種である職員同士の交流や情報交換、更には経験豊富な先輩職員からの実践例をもとに戦略を立てた。										
活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。 1 宮崎県の農業教育の現状の分析 本県の農業は、温暖多照な気候、平地から山間部にいたる変化に富んだ地形と資源を生かし、早期水稻や施設園芸、畜産を中心に農業産出額は3,000億円を超えている。しかしながら、農家戸数や就業人口ともに減少傾向にあり、農業従事者の高齢化が深刻な問題となっている。 一方、農業の担い手や産業技術者を育成する農業高校では、生徒数や教職員の数も大きく減少してきている。 農業構造の現状  ■農家戸数 □農業就業人口 昭和58年と平成30年度の比較 <table><thead><tr><th></th><th>職員数</th><th>生徒数</th></tr></thead><tbody><tr><td>S58年</td><td>262人</td><td>2,893</td></tr><tr><td>H30年</td><td>173</td><td>1,854</td></tr></tbody></table> ↓L/A2 農業高校生数減少の推移 ・実習施設や設備の維持(特別会計等を含む) ・農業クラブ活動の事務局・大会運営 昭和58年と平成30年を比較すると、教職員が89人、生徒数が1,854人減少している。 そのような現状から、教職員の人材の確保と育成、そして実習教師の現場力の向上は勿論のこと、技術の伝承や人格的な形成における資質の向上が大きな課題である。			職員数	生徒数	S58年	262人	2,893	H30年	173	1,854
	職員数	生徒数								
S58年	262人	2,893								
H30年	173	1,854								

2 宮崎県農業教育（実習教師・実習助手）悉皆研修による人材育成の取組 1) コンプライアンス研修 県教育委員会と農業教育研究会（指導力向上部会）が連携し、教職員の不祥事防止及びコンプライアンスの推進を目的に行うもので、常に教育公務員としての自覚をもち、厳正な生活態度を堅持するとともに、教育職としての意識の高揚を図る。 2) 財務・福利厚生研修 ア 農業高校では農業生産物の生産における特有の会計制度がある。生産に係る歳入、歳出の適切な処理方法について確認するとともに、処分伺いなどの書類作成上の留意点等を確認する。 また、農場及び実習施設の環境を整備するとともに、作業の安全性の確保について認識を深める。 イ メンタルダウンの未然防止について～心身ともに健康で職員の一人一人が、学校現場で十分に職務を発揮できるよう、財務福利課で実施しているストレスチェック制度の目的や相談事業について説明することにより、セルフケア（自分自身で行うストレス対策）の大切さ等について理解を深める。 3) 伝達講習（新学習指導要領） 農業教育の中での実習教師、実習助手が果たす役割は非常に大きいものがある。日頃の農場管理や農業クラブ活動、部活動、生徒指導など指導の内容也多岐にわたっている。中でも、農場現場における技術の伝承や人材の育成が大きな課題でもある。新学習指導要領が告示され内容の伝達講習を含めた研修会を実施することで、農場現場での指導力の向上に役立てる。 4) 先輩教師による講話 教諭と連携した農場実習の指導の実際と、野菜経営に関する栽培技術の指導方法について研鑽を深めることにより、実習教師、実習助手としてのスキルアップにつなげる。 3 県立農業大学校・宮崎大学・南九州大学との連携した農業教員（実習教師・実習助手）の技術研修 ・研究者（教員）と農業高校教員の交流及び技術研修 ・コンソーシアム方式による協同プロジェクトの推進と指導方法の確立 ・農畜産業及び食品産業における研究と新商品開発（GAP教育の推進と指導員養成等）	 コンプライアンス研修 先輩実習教師による講話 ワークショップ研修 現場研修
---	---

活動の成果：※それによって、どんな成果が得られましたか？

- 1 農業の実習教師・実習助手を対象に、宮崎県ではじめてとなる独自の研修会を部会長として、企画し実施した。これまでに高校や県立農業大学校等を卒業し、教育職としての研修機会が少なく、特に服務や財務に関する研修内容は受講者にとって大変意義深い内容となったようである。
- 2 新学習指導要領が告示され、農業高校での栽培や飼育、食品加工や食品製造を専門とする職員にとっては、専門性をどのように身に付け、そして具体的な指導方法を探るという点では、とても参考になったようである。（アンケートにより日頃の教育活動について振り返る機会を作った）
- 3 働き方改革に伴う学校独自の改善点等を出し合い、各学校での農場運営の在り方について積極的に情報交換を行ったことは、教職員の資質向上に大きな成果があった。（特に、ものづくり中心に携わっている職員にとっては、生徒指導を含めた校内の各分掌での役割を再認識し、学校の組織の中で指導力を発揮していくかという、教職員としての使命感について再認識する貴重な機会となったようである）

アピールポイント（アイディアや工夫）：

中央研修で学ばせていただいた、学校組織マネジメントにおける手法を、本県の実習教師の人材育成について学校だけの課題ではなく県内の農業関係高校に枠を広げて実施できたことは大変意義があったと考える。やはり、各学校の弱いところを全体でどう強みに変えていくのかが見えてきた。

今後、農業高校の教育の特色である農場運営とその技術的な継承を担う、実習教師と実習助手の先生方に人材確保を含めた育成に焦点をあて、現状と課題を分析した上での2年間にわたる継続した取組を研修成果として報告した。

